

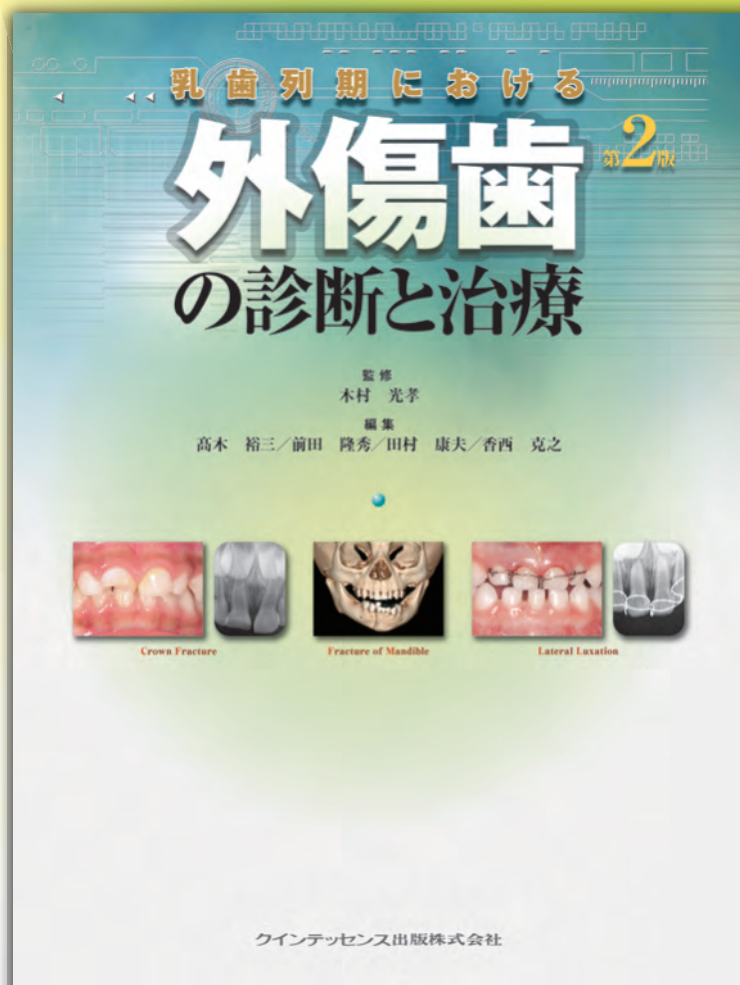
乳歯列期における

# 外傷歯 の診断と治療

第2版

監修 木村 光孝  
編集 高木 裕三/前田 隆秀/田村 康夫/香西 克之

「子どもの外傷歯にどう対処すべきか」



基礎に立脚した最新知見と  
外傷別の処置法を網羅した  
一般臨床医/専門医必携の書!

## CONTENTS

- I 乳歯外傷とは
- II 受診時の対応
- III 治療法の実際
- IV 乳歯外傷の予後
- V 乳歯外傷の予防
- VI 乳歯外傷による神経線維の動態

全42項目60症例を掲載!

●サイズ:A4判変型 ●124ページ ●定価:5,775円(本体5,500円・税5%)



クインテッセンス出版株式会社

〒113-0033 東京都文京区本郷3丁目2番6号 クイントハウスビル

TEL. 03-5842-2272 (営業) FAX. 03-5800-7592 <http://www.quint-j.co.jp/> e-mail mb@quint-j.co.jp



## III 「治療法の実際」より

### III - 6 乳歯における震盪

III - 6 震盪とは
III - 治療法の実際

**震盪とは**

(1) 震盪と歯脱臼の比較  
震盪は歯臼性外傷の中ではもっとも軽度なものである。乳歯では打撲などの軽度な外傷因子による震盪は、幼少の日常生活で高頻度に見ていると考えられる。症状ではとくに異常な所見を認めず、エックス線検査においても、正常な歯根膜線と歯槽線が観察される。重傷は打診に対して、違和感や軽度の痛みを訴えるのみで、その他の臨床上の所見を認めない。震盪状態には、軽度の炎症がみられる状態であり、「震脱臼」に認められるような歯肉溝からの出血や歯冠による動揺はない。

「震盪」と「震脱臼」の違いを図1、図2に示す。「震盪」では、歯根膜に軽度の炎症を認めるのみで、根尖部の歯根への血液供給を司る動脈の断裂は生じていないことが多い。

(2) 経過観察の重要性  
患者と保護者には、しばらく震盪部位を避けて食事とし、安静を保つよう指導する。通常1年程度の経過観察を行い異常がなければ終了となるが、後継永久歯との交換までは注意が必要である。

震盪と診断された外傷において、患部から歯根への血液の供給が断裂し壊死に至ることほまれである。しかし、どんなに軽度の震盪であっても、歯根壊死に至る可能性はあるため、経過観察は必ず行わなくてはならない。とくに根尖乳の狭い歯冠形成では断裂しやすく修復されにくい点に注意すべきである。経過観察中に、明らかな歯根壊死と診断される場合や、歯根の内部・外部吸収が認められた場合は根管治療を行う。程度は低いが、エックス線検査で根管腔の狭窄または閉塞を認めた場合は、臨床症状がなければ根管治療を行わず経過観察を行う。

<震脱臼と震盪が同一患者で認められた症例>



① 初診時(5歳6か月の女児)：転倒によりアスファルトで右側上顎部を打撲。歯槽溝および内出血による腫脹を認める(図3)。

② Aは歯肉溝からの出血、打診痛、動揺を認め震脱臼と診断。Bはやや打診痛はあるが歯肉溝からの出血と動揺は認められず震盪と診断(図4)。エックス線検査ではとくに異常所見は認められない(図5)。

③ ツリストワイヤーとフロアアプレーションによる固定を2週間行った(図6)。

④ 受傷4か月後：異常所見は認められない(図7)。エックス線検査においても、Aはの歯根および後継永久歯に異常は認められない(図8)。

⑤ 受傷1年5か月後(7歳1か月時)：Aは自然に吸収(図9)。

⑥ 受傷2年2か月後(7歳8か月時)：上1は正常に萌出し、上1の切端付近に点状の白斑(失印)と齶面に外來色素の沈着を認める(図10)。

**症例**

歯が外傷を受けた場合、重症な歯のほうが行方がちであるが、軽くなる歯も程度によっては外傷を受けている可能性があるため十分に診察することが大事である。通常震盪の場合、何も処置をせずに経過をみるのが普通であるが、この症例(図③-⑩)では震脱臼を起こしていたAの動揺も打診痛が強かったためツリストワイヤーとフロアアプレーションによる固定を行った。震盪を起こしていたBは動揺がなく打診痛も軽度であったため固定をしないとした。その後とくに臨床症状もなくAの歯根は膿腔に吸収し後継永久歯と正常に交換した。根管治療を行わずに経過したことは幸いである。このようなケースでは、歯根壊死が生じて歯冠が変色してくることも多いので、後継永久歯が萌出するまで継続的な診察が必要である。

参考文献

1) 藤本雅弘, 池 寛昭, 寺嶋孝紀, 木原由美恵, 櫻田 隆, 本村光幸：震盪による乳歯歯根の脱臼の1例 - 1年経過観察 - . 小児歯誌 34 : 219-224, 1996.

2) Andreasen JO, Andreasen FM 著, 片岡光雄 監訳：トラウマ外傷歯科治療の基礎と臨床。ダイヤモンド出版, 東京, 1995.

3) 日本外傷歯科学会：歯の外傷治療のガイドライン。日本歯病誌 5 : 119-126, 2012.

## 専門医に学ぶ 全42項目60症例を掲載!

- |           |           |            |                |
|-----------|-----------|------------|----------------|
| 「乳歯外傷の疫学」 | 「保護者への対応」 | 「固定法」      | 「後継永久歯への影響」    |
| 「診査・診断」   | 「歯冠破折」    | 「接着材料と使用法」 | 「歯髓腔の変化」       |
| 「緊急時の処置」  | 「歯根破折」    | 「軟組織損傷」    | 「歯周組織の変化」      |
| 「画像検査」    | 「脱臼」      | 「変色歯」      | 「マウスガード」       |
| 「脱落歯の保存液」 | 「再植法」     | 「歯根吸収」     | 「乳歯外傷の教育」      |
| 「他科との連携」  | 「歯槽骨骨折」   | 「歯肉退縮」     | 「神経線維の動態」 etc. |

きりとり線

注文書

### 乳歯列期における外傷歯の診断と治療 第2版

モリタ商品コード:805562

冊注文します。

●お名前	●貴院名	●ご指定歯科商店
●ご住所 (〒 )		
●TEL	●FAX	

支店・営業所

※ご記入いただいた個人情報は、弊社の新刊案内、講演会等の案内に利用させていただきます。  
※ご指定歯科商店がない場合は送料をいただき、代金引換宅配便でお送りさせていただきます。